



借金 借金 借金 借金 借金
借金 借金 借金 借金 借金
借金 借金 借金 借金 借金

「返しても返しても借金が減らない・・・」
「複数社から借りていて返済が難しい」
「限度額が一杯になってしまった・・・」

あなたの借金は解決可能です！

**借金返済に見通しを立てて
今の暗い状況から脱却できる**

**あなたの借金を0にするための
借金完全返済マニュアル**

【推奨環境】

このレポート上に書かれている URL はクリックできます。できない場合は最新の AdobeReader をダウンロードしてください。（無料）

<http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/readstep2.html>

◆ 著作権について

当レポートは、著作権法で保護されている著作物です。使用に関しましては、以下の点にご注意ください。

◇ レポートの著作権は、作者にあります。作者の書面による事前許可なく、本レポートの一部、または全部をインターネット上に公開すること、およびオークションサイトなどで転売することを禁じます。

◇ 本レポートの一部、または全部をあらゆるデータ蓄積手段（印刷物、電子ファイル、ビデオ、DVD、およびその他電子メディアなど）により複製、流用および転載することを禁じます。

◆ 使用許諾契約書

本契約は、レポートダウンロードした法人・個人（以下、甲とする）と作者（以下、乙とする）との間で合意した契約です。

本レポートを甲が受けとることにより、甲はこの契約は成立します。

第1条（目的） 本契約は、本レポートに含まれる情報を、本契約に基づき、甲が非独占的に使用する権利を承諾するものです。

第2条（第三者への公開の禁止） 本レポートに含まれる情報は、著作権法によって保護されています。また、本レポートの内容は、秘匿性の高い内容であり、甲はその情報を乙との書面による事前許可を得ずにいかなる第三者にも公開することを禁じます。

第4条（損害賠償） 甲が本契約の第2条の規定に違反した場合、本契約の解除に関わらず、甲は乙に対し、違約金として、違反件数と金壹萬円を乗じた価格の10倍の金額を支払うものとします。

第5条（その他） 当レポートに沿って実行し、期待通りの効果を得ることができず、万一如何なる損益が生じた場合でも、乙は甲に対して責任を負わないものとする。

【免責事項】

著者および発行者はこのE-BOOK を執筆するにあたり最大限の努力をしています。著者および発行者は、このE-BOOK の内容の精度や適用性、適合性、完全性についてはいかなる保証もいたしません。このE-BOOK の情報は教育を目的としているものです。したがって、このE-BOOK にあるアイデアを適用する場合の全責任は利用者ご自身で負うものとします。著者および発行者は、いかなる特定用途のためにもその保証（明示的であれ暗示的であれ）や商品性、適合性を否認いたします。著者および発行者は、このE-BOOK を使用することで直接あるいは間接的に発生する、直接的、間接的、懲罰的、特別、付随的、またはその他の派生的損害について、いかなる責任も負わないものとします。

また内容は現状のまま、保証なしで提供されるものとします。常に適任とされる専門家のアドバイスを求めるようにしてください。

著者および発行者は、このE-BOOK で記載されたサイト一覧やリンクの性能、有効性についてはいかなる保証もいたしません。

全てのリンクは情報目的だけに用いられており、その内容や精度、他のいかなる目的についても保証されるものではありません。

借金地獄から抜け出すためには

最初はちょっとお金が足りなくて、気軽に借りただけなのに、気が

つけば返しても返しても借金が減らない・・・

今、こんな借金地獄に陥っている人が急増しています。

今は簡単、気軽にカードローンが利用できるため、若い世代からも

利用者が増えています。

しかし、気軽に利用できるため、計画性もなくどんどん利用すると

気づかない間に借金が膨れ上がり毎月の返済も苦しくなってしまう

ます。そうになると、借金の返済のためにまた借金をする、といった

地獄の借金ループが始まってしまうのです。ここに一度陥ってしま

うと返しても返しても借金が減らず、抜け出すのはなかなか困難で

す。長期の借金地獄に耐えかね自殺を選んでしまう人も実際にいる

のです。

でも、諦めないでください。借金は返済するための正しい知識をも

ってそれを実践すれば、借金地獄から抜け出すことができます。

本書では借金を返済するために、どんな人が借金地獄に陥りやすい

か、借金地獄に陥らないためにはどうすればいいか、借金を返済す

るためにはどうすればいいかを解説していきます。

借金をする人の特徴

借金を全くしない人にとって、借金をする人の心理、行動は以下の

ように理解しづらいものです。

「どうして借金をしてまでそれを買うの？」

「自分のお金ではないのにどうしてそう簡単に使ってしまうの？」

「借金を全部返すまで我慢しようと思わないの？」

本書を手にとられているということはあなた自身に借金があるか、

もしくは身近に借金をしている人がいる、など借金関連のお悩みが

あるのだと思います。

ここで借金する人の特徴や、何故借金をするのかを考えてみましょう

う。

自分が借金をしているのであれば、自分を客観的に見直すことがで

きますし、身近な人に借金があるのであれば、その解決の糸口にな

るはずです。

1. 嘘をつく

一般的に借金をする人は嘘をつくことが多いといわれています。

嘘をついている＝借金をしている、というわけではありませんが、

総じて借金をしている人は嘘をつきやすい傾向にあります。

まずは家族に対して嘘をつきます。

最も身近である家族ですが、自分が借金をしているのを知られて問い詰められたり、怒られたりするのを避けるために嘘をついてしまいます。

例えば給料をギャンブルや投資につぎこんでしまい、それが家族にバレて怒られたり、心配されたりするのを避けるため、家族に黙って消費者金融などで借金をしてしまうパターンがあります。

次に友人に対して嘘をつきます。

ギャンブルなどでお金が足りなくなってしまった場合、正直に言うことができず、「生活費が足りない」「親族の不幸で香典代が」な

どと嘘をついてしまいます。

最後に自分に対しても嘘をつきます。

自分がした借金が、本当は必要のない借金であっても、「これは自

分にとって必要な借金だ」と、借金を正当化するように自分を言い

聞かせてしまいます。

もちろんこれは自分にとって都合よく甘い言い訳に過ぎません。

2. 収入が減ったのに生活が変わらない

失業や何らかの原因で収入が減ったのに生活が変わらない、という

のも借金をする人の特徴です。

通常、収入が減れば、それに合わせて節約をするなど、生活レベルを下げる必要があります。しかし、食事や人付き合い、ファッション、娯楽などの一度慣れてしまった生活レベルを下げる事は簡単ではありません。そのため、収入が減っても以前の収入の時のままの生活を継続し、結果お金が足らなくなり、借金をしてしまうという傾向があります。

3. 浪費癖がある

自分の収入や所持金に見合わない、高額な買い物をついついしてしまう人も借金する傾向があります。

特に必要なものでもないのに、買ってしまう、買い物自体が目的に

なっている人は買い物依存症になっている可能性があり要注意です。

4. 見栄っ張り

他人に対してつい見栄を張ってしまうことは誰にでもあることです

が、それが限度を超えて見栄を張ってしまう人も借金をしてしまう

傾向にあります。

例えば、

- ・ 飲み会で後輩には必ず奢る
- ・ デート代は必ず男が奢るもの
- ・ 高額なプレゼント、差入を贈る

などです。

これが自分の収入に見合っていて経済的に問題が無ければよいので

すが、この見栄のために借金をするとすると自分の生活に支障をき

たし、借金を繰り返す傾向にあります。

5. 収入が安定しているが貯金ができない

通常、借金は収入が少ない人がするものという認識がありますが、

意外とある程度安定した収入がある人でも借金をすることが多いの

です。普通に生活する分においては問題の無い収入があっても、臨

時の出費など様々な理由で、いつも通りの収入ではお金が足りなく

なってしまう時があります。

このような時、

「来月にはまた給料が入るし、今月は借りて乗り切ろう」

という安易な考え方が借金生活への入口となってしまうのです。

そもそも、今月お金が足りない、という場面で、使える貯金が無い

のが大問題です。

ある程度安定した収入があるのにも関わらず、全く貯金の出来てい

ない人は借金地獄に陥りやすいので要注意です。

6. 借金の限度額＝自分の使えるお金と思っている

最も危険で、多重債務に陥ってしまう人に多く見られる考え方です。

消費者金融、カードなどのキャッシング枠にはその人にこの金額ま

では貸せますよ、という限度額が設定されています。

借りることのできる限度の額ですから、当然あなたのお金ではあり

ません。しかし、借金癖のある人にとって

限度額＝自分の預金額＝自分の使えるお金

と考えている人が非常に多いのです。

借金である以上、借りれば返すことを考えて利用すべきなのです

が、限度額＝自分の使えるお金と思っている人は借金であるという

認識が非常に薄くなっている傾向にあります。そのため限度額いっ

ぱいまで借りたとしても、限度枠を増枠したり、他者で新しくカー

ドを作り借りることができれば、

「これで使えるお金が増えた」

というように思ってしまうのです。

この状態に陥ってしまうと借金返済を借金してする、という悪循環

になりやすく非常に危険な状態です。

借金地獄への入口もしくはもう突入している可能性があります。

7. ギャンブル癖がある

ギャンブル癖がある人も借金することが多い傾向にあります。

ギャンブル、といっても、パチンコ、競馬、競輪といったものだけ

ではなく、最近ではスマホゲームなどの「ガチャ」にのめりこんで

しまい、借金するケースが多くみられます。

ギャンブルには当たったという快感を脳が覚えてしまい、その行動

をやめられなくなるという「ギャンブル依存症」になってしまう危

険性があります。この状態になると、お金が無くなり、もうしては

いけないと思っても借金をしてでもギャンブルへの衝動が抑え

られなくなってしまう。

8. 人に相談できない

お金に困った時、身近な人に正直に相談できる人はいいいのですが、

誰にも相談できず、内緒で借金をしてその状況をやり過ごそうとす

る人は借金生活から抜け出せない傾向にあります。

これは真面目でプライドが高い人ほど陥りやすいケースです。

このような人は自分ではどうにもならない額の借金になるまで1人

で抱え込んでしまい、最終的に債務整理となったり、最悪の場合、

自殺してしまうケースもあるため要注意です。

9, 計画性が無い

借金を重ねて借金地獄に陥りやすい人に多い特徴で、計画性が無い

ということがあります。

計画性が無ければ、自分が生活するのに月いくらいるのか、をいう

ことも把握することができません。今あるお金をあるだけ使い、生

活費や娯楽費で足りなくなれば借金を繰り返す、という生活になっ

てしまいがちです。当然借金の返済計画も立てていないため、借金

の返済を借金でということも平気で行い、どんどん借金が積み重な

り多重債務に陥りやすいのです。

リボ払いの危険性

クレジットカードを作るとよく耳にするのが「リボ払い」という言

葉。リボ払いとは毎月のカードの利用額に関係なく、毎月の支払い

額を一定にする返済方法です。例えば 10 万円の買い物をして月 5000

円のリボ払いにすると翌月の支払い額は 5000 円となりそれ以降も

5000 円となります。また返済中でもクレジットカードは使えますの

で、追加でカードを使っても毎月の支払額は 5000 円となります。

これだけ聞くと非常に便利に聞こえ、実際、大学生、新社会人など

のカードを利用し始めたばかりの人達は、いくら使っても毎月の支

払いが少なくて済むリボ払いを魔法のように思っている人もいます。

ただ、これは大きな勘違いです。

リボ払いは借金であり、毎月支払う金額の中には利息も含まれています。

返済している間ずっと利息を払い続けているのです。

消費者金融でお金を借りて返済しているのとは何ら変わりません。

これに気づかず便利だ便利だとリボ払いを無計画に使い続けてしまうと借金地獄に陥ってしまう可能性があります。

ここでリボ払いの危険性について学んでおきましょう。

【リボ払いの危険性】

1. 返済が長期化しやすい

分割払いは支払い回数が決まっているため、3 回と指定すれば支払い

3 回で完済となりますが、リボ払いは支払い回数ではなく、毎月の支

払い額を決めて返済する方法ですので、使い方によっては永遠に支

払いが終わらない場合があります。

例えば毎月 5000 円の支払いにしている場合、毎月 3 万円のカード利

用があれば、毎月返済を続けていても、1 年後には約 30 万円の借金

が積み重なっていることになります。

毎月の返済額は一定なのですが、使った分どんどん借金が後ろに積み重なっていくイメージです。毎月の返済額が少なければ借金残高が減るところかどんどん増えていってしまう仕組みになっています。

毎月の返済額を増やすか、カード利用を完全にストップしない限り、いつまで経っても返済が終わらないのがリボ払いです。

2. 借金残高に対して金利が発生する

更に怖いのが1でふくれ上がった借金残高に対し、リボ払いでは年率 15%くらいの高金利が発生します。利用額が少なかったり、計画的にカード利用している分には大したことがなくとも、毎月の返済額

を上回るカード利用を続けていると、借金残高がどんどん増えてい

き、毎月に支払額の中の金利の割合が増加していきます。

先ほどの例で借金残高が 30 万円で毎月の支払額が 5000 円の場合、1

か月に発生する金利（手数料）は 3750 円となり、毎月の支払額のほ

とんどが利息となり、借金残高はほとんど減っていないことになり

ます。そして、カード利用を毎月続けていると、借金残高は更に増

えていき、支払額の中の利息もまた増えていきます。

どんどんと返済期間が伸びていき、支払総額が増えていく仕組みに

なっています。

無計画にリボ払いを利用するのは止めてください

単発の買い物などで、計画的にリボ払いを利用するのは問題ありま

せん。しかし、無計画に、ただ毎月の支払いが少なくて済むから、

という理由でリボ払いを利用するのは今すぐ止めてください。

リボ払いは

「毎月の支払いが少ない代わりに長期間返済を続け高い金利を支払い続ける支払い方法」

であることを理解しましょう。

終わらない返済、多重債務などの借金地獄は、このリボ払いが入口

であることも非常に多いのです。

リボ払いを早期返済する方法

毎月のカード利用額＞毎月の返済額となっている場合、完済するの

は非常に困難です。この場合、積極的に繰り上げ返済を利用しまし

よう。繰り上げ返済とは、毎月の支払とは別に、任意でまとまった

金額を返済する方法です。リボ払いの手数料は利用残高に対して手

数料がかかるため、繰り上げ返済により利用残高を減らすことで

後々発生するはずだったリボ払いの手数料の負担を軽くすることが

できます。

まとまった金額を返済することが困難な場合、毎月の支払額を増額

する方法があります。

基本的にリボ払いは毎月のカード利用額＜毎月の返済額とならない

限り完済することはできません。

リボ払いを完済するには、今のままの支払額でいくのであれば、完

済するまで一切カード利用を停止するか、毎月のカード利用額より

毎月の返済額が上回るよう調整するしかありません。

自分が計画的にリボ払いを使えていないと少しでも感じたら、リボ

払いによるカード利用を停止して一旦リボ払い完済することに専念

しましょう。

借金完済のための4STEP

「いくら返しても借金が全然減らない・・・」

と悩まれている方は非常に多いです。

しかし、借金が減らないのには理由がちゃんとあるわけで、きちん

と返済プランを立てて計画通り返済することで、完済することがで

きるようになります。

ここでは借金完済までの道のりを4つのSTEPに分けて解説しま

す。

STEP. 1 収入と支出を把握する

まずは今の自分の収入と支出を把握しましょう。

毎月いくらなら返済できるのか、そこがわからなければ計画の立て

ようがありません。

家計簿をつけていない人は、自分が今借金をしているということを

十分に理解し、今日、この瞬間からつけはじめて下さい。

まずは収入と、支出を項目ごとに書けるだけノートに書き出して

きましょう。

【収入・支出の一例】

収入 23 万円

支出

- ・ 家賃 60000 円
- ・ 光熱費 20000 円
- ・ ネット、スマホ 10000 円
- ・ 食費 30000 円
- ・ 衣類 10000 円
- ・ 交際費 20000 円
- ・ 日用品 20000 円

支出計 17 万円

ここで収入から支出合計を引くと、 $23-17=6$ 万円となり

毎月の返済額にあてられる金額は最大 6 万円とわかります。

現在、家計簿をつけている人は問題ありませんが、家計簿をつけて

おらず、収入支出をきちんと把握できていない人は、まずそこを把

握することから始めてください。

これを把握せずにどんぶり勘定で適当に返済額を設定してしまうと、

高額すぎれば返済計画が破綻しますし、低額すぎれば返済が長引き

高額の利息を払うことになります。

家計アプリなどで 1000 円単位でも構いませんので必ず数か月分の家

計を記録し支出額を把握しておきましょう。

STEP. 2 返済金額シミュレーション

収入と支出を把握し、借金返済に回せる金額がわかったら、次は借

金返済を金額ごとにシミュレーションしてみます。

返しても返しても借金が減らない原因は、借金額に対して、毎月の

返済金額が低すぎる、ということが考えられます。

カードローン、消費者金融などでは毎月の最小返済額が設定されて

いますが、借金がなかなか減らない人のほとんどはこの最小返済額

しか返していません。なるべく毎月の返済額を少なくしたいという

のはわかりますが、その結果、返済期間が長くなり、利息が高額に

なります。

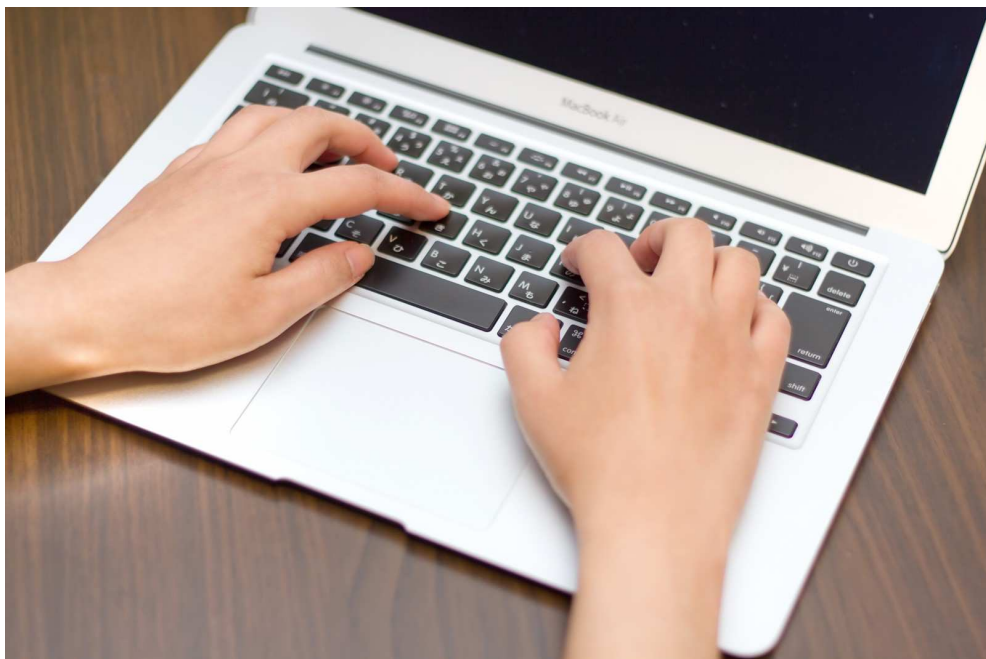
毎月いくら返せばどれだけの期間で完済でき、いくらのお利息がかか

るのか、これを理解する必要があります。

そのための返済金額のシミュレーションです。

貸金業者のHPなどでこのシミュレーションができるところもあり

ますが、ここでもいくつかの例をとりあげてみます。



【借金 100 万円 金利 15%】

・ 毎月の返済額が「2 万円」の場合

返済期間・・・79 か月

利息・・・579,052 円

返済イメージ（10 回目まで抜粋）

回数	返済額	元金	利息	残高
1	20,000	7,500	12,500	992,500
2	20,000	7,594	12,406	984,906
3	20,000	7,689	12,311	977,217
4	20,000	7,785	12,215	969,432
5	20,000	7,883	12,117	961,549
6	20,000	7,981	12,019	953,568
7	20,000	8,081	11,919	945,487
8	20,000	8,182	11,818	937,305
9	20,000	8,284	11,716	929,021
10	20,000	8,388	11,612	920,633

・ 毎月の返済額が「3 万円」の場合

返済期間・・・44 か月

利息・・・301,674 円

返済イメージ（10 回目まで抜粋）

回数	返済額	元金	利息	残高
1	30,000	17,500	12,500	982,500
2	30,000	17,719	12,281	964,781
3	30,000	17,941	12,059	946,840
4	30,000	18,165	11,835	928,675
5	30,000	18,392	11,608	910,283
6	30,000	18,622	11,378	891,661
7	30,000	18,855	11,145	872,806
8	30,000	19,090	10,910	853,716
9	30,000	19,329	10,671	834,387
10	30,000	19,571	10,429	814,816

・ 毎月の返済額が「5 万円」の場合

返済期間・・・24 か月

利息・・・157,936 円

返済イメージ（10 回目まで抜粋）

回数	返済額	元金	利息	残高
1	50,000	37,500	12,500	962,500
2	50,000	37,969	12,031	924,531
3	50,000	38,444	11,556	886,087
4	50,000	38,924	11,076	847,163
5	50,000	39,411	10,589	807,752
6	50,000	39,904	10,096	767,848
7	50,000	40,402	9,598	727,446
8	50,000	40,907	9,093	686,539
9	50,000	41,419	8,581	645,120
10	50,000	41,936	8,064	603,184

上記の例で、毎月の返済額を最低返済額である 2 万円を選択した場

合、返済期間は 79 か月となり、利息は 579,052 円となり、100 万円

借りて約 158 万円返すことになります。

それに対して、毎月の返済額を 3 万円に上げると返済期間は 44 か月、

利息は 301,674 円、毎月の返済額を 5 万円にすると、返済期間は 24

か月、利息は 157,936 円となり、返済期間は短くなり利息もかなり

安くなります。STEP. 1 で支払いに回せるお金が月 6 万円とわ

かっていますので、ここは 3 万か 5 万円、できれば 5 万円を選択す

るべきでしょう。

安易に最低返済額しか返さない選択をしてしまうとご覧の通り、返しても返しても元金がほとんど減らない借金地獄となってしまうのです。

毎月の収入がある程度安定している場合、このSTEP. 1、STEP. 2を確実に実行するだけで、多くの借金問題は解決可能です。

STEP. 3 返済方法を検討

STEP. 1、2を実行してみても、返済の見通しがたたない場合は新しい返済方法を検討してみましょう。

選択肢としては以下3つがあります。

1. 繰り上げ返済
2. 借り換え
3. 借金一本化（おまとめローン）

それでは1つずつ見ていきましょう。

1. 繰り上げ返済

繰り上げ返済は毎月の返済とは別に、いつでもいくらでも任意で返

済できる返済方法です。繰り上げ返済のメリットは、返済した分、

全て借金元本の返済に充てられるということです。通常の毎月の返

済では利息を引いた分だけが元本に充てられますが、繰り上げ返済

ではその全額が元本に充てられるため、元本を減らしやすく、返済

期間を短縮することができます。

ボーナスが入ったり、生活費に余裕の出た月などに積極的に繰り上

げ返済をおこないましょう。また、車や貴金属を所有している場合

はそれを売却したり、投資商品の売却や定期預金などの解約も視野

に入れ、まずは借金の完済を目指しましょう。

よく借金をしたまま投資をしている方がいますが、投資で借金の金

利以上に稼ぐことは非常に困難です。投資に投入している資金を借

金返済に充てる方が圧倒的に得となる場合が多いのでまずは借金を

完済しましょう。

2. 借り換え

借り換えとは、現在借りている貸金業者より、低金利の貸金業者に

借金を乗り換えることです。金利が低くなればその分利息が少なく

なり、月々の返済額も少なくなります。

注意点として借り換えする場合にも審査が必要となります。

借り換えする前に返済を遅延して信用情報にキズがつかないように

しましょう。

3. 借金一本化（おまとめローン）

借金一本化、おまとめローンとよく呼ばれていますが、これは複数

社から借金をしている場合に有効な方法です。

複数社から借りているお金を1社にまとめる、という方法です。

金利には法律で定められた上限があり、借入金額が大きいほど金利

が下がります。

10 万円未満・・・金利 20%

10 万～100 万円未満・・・金利 18%

100 万円以上・・・金利 15%

上記のように、100 万円未満の借金を複数から借りている場合は1

社にまとめると金利が下がり、結果、支払総額も下がることになり

ます。

STEP. 4 生活を見直す

STEP 1～3 を実行してみて、借金返済の見通しが立たないよう

であれば、生活の見直しを図ります。

まずは支出の中でも固定費を下げる努力をしましょう。

- ・ 家賃
- ・ スマホ料金
- ・ 各種保険料
- ・ 習い事の月額料金
- ・ 音楽などのサブスク利用料

固定費は一度下げることができれば、その後ずっとその分のお金を

返済に充てることができます。

スマホ料金は格安スマホに変更することで数千円から数万円安くなる場合があります。保険料も今解約するともったいない、不安だと思うものもあるかもしれませんが、借金がある現状で契約継続していいものではありません。生活維持に必要な最低限の固定費以外はできるだけ削ってみましょう。

STEP 1～4 を実行してみても、借金返済の見通しが立たない場合は、最終ステップである債務整理を検討します。

次ページからは債務整理のメリット・デメリットについて解説します。

債務整理のメリット・デメリット

債務整理というのは、簡単に言うと、

「あなた1人では解決できない債務の悩みの解決法」

ということです。

債務整理には

- ・ 任意整理
- ・ 個人再生
- ・ 自己破産

といったいくつかの方法があります。

ここでその内容とメリット、デメリットを見ていきましょう。

1. 任意整理

任意整理は貸金業者と交渉し、将来の利息をカットし3～5年の分

割払いで支払いする、などの内容で和解することで、借金の額や毎

月の返済額を減額することです。これにより支払い困難な状況から

余裕を持った支払いが可能になる状況を目指すという手続きです。

この手続きは貸金業者側の承諾が無ければできませんので、安定し

た収入が無い場合や借入から1年未満も経っていない場合は応じて

もらえない場合もあります。

毎月の返済額がもう少し少なければ借金を返せる、という人向けの

債務整理です。

【任意整理のメリット】

1. ギャンブルや浪費などの自己責任による借入が原因であっても
手続きができる
2. 将来の利息カット＋3～5年の分割払いとすることで毎月の返済額が下がる
3. 裁判所を介さず、資産や収入支出などの資料を揃える必要が無い
ため、比較的手続きしやすい

【任意整理のデメリット】

1. 信用情報機関にブラックリスト登録され約5年は借入ができなくなる

2. 借金の元金がカットされることはない

3. 借入れからあまり時間が経っていない場合は和解ができないことがある

4. 個人貸金や小規模貸金業者などの場合、将来利息のカットが難しい会社もある

2. 個人再生

個人再生は、裁判所に申し立て、借金を $1/5 \sim 1/10$ 程度に減額して

もらい、それを3年から5年の分割で支払うという手続きです。

借金は大幅に減りますが、残るため、返済する必要があります。

そのため、返済できるだけの収入が無い場合は裁判所に認めてもら

えません。

【個人再生のメリット】

1. 借金の元金を減らすことができる。多くは8割程度の免除。
2. いくつかの条件を満たせば住宅を手放さず手続きできる。
3. 貸金業者からの差し押さえを止めることができる。
4. 借金原因がギャンブルなどの自己責任でも手続きができる。

【個人再生のデメリット】

1. 信用情報機関にブラックリスト登録され約5～10年は借入ができなくなる。

2. 官報に氏名が掲載される。

3. 同一家計の収支を裁判所に報告する必要があるため、家族に秘密にすることは難しい。

3. 自己破産

自己破産は裁判所に申し立てをし、借金全額の免除を認めてもらう

手続きです。裁判所で免責決定が下されると全ての債務が免除され

ますが一部例外もあります。税金や養育費などの非免責債権は免除

されません。また、借金の原因がギャンブルや浪費などの自己責任

が大きい理由であれば、免責不許可事由となり、免除されません。

自己破産は任意整理や個人再生と違い、その後の返済が無いため収入面でのハードルが低く、借金が大きく全く返済の見通しがたたない場合や、生活するだけで精一杯で借金の返済ができないような収入状況の場合に適している債務整理です。

【自己破産のメリット】

1. 借金が非免責債権以外全て免除となる。
2. 20 万円以下の預貯金や古い車などは残すことができる。
3. 低収入、無職、生活保護中であっても手続きできる。
4. 貸金業者の差し押さえを止めることができる。

【自己破産のデメリット】

1. 信用情報機関にブラックリスト登録され約5～10年は借入ができなくなる。
2. 官報に氏名が掲載される。
3. 免責決定を受けるまでは警備員など一部就けない職業がある。
4. 家、車など財産のほとんどを手放さなければならない。
5. 家族に内密で手続きすることは難しい。

